

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4472100488
法人名	医療法人 二豊会
事業所名	グループホーム向日葵
訪問調査日	平成19年12月26日
評価確定日	平成20年 2月21日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4472100488
法人名	医療法人 二豊会
事業所名	グループホーム向日葵
所在地	国東市国見町竹田津3625番地 (電話)0978-84-0800

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年 2月21日

【情報提供票より】(平成19年12月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建瓦葺き 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800円		

(4)利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低 69 歳	最高 90 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	国見病院 ふじがき歯科医院 岐部歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 管理者と全職員が、一人ひとりの個性や思いを大事にし、利用者、家族の満足のいくケアをめざし日々取り組んでいる。
2. 3度の食事やおやつは、利用者とは話し合っって献立を立てている。食材の買い出し、調理、食事、片付け等、家庭的な雰囲気の中で、利用者が持っている力を引き出しながら一緒に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題に対して、具体的な取り組みが見られない。改善計画シートなどを作成し、全職員で課題を改善していくことで、ケアの質の向上を図ることを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が作成し、職員会議で、項目ごとに話し合い、改善項目は挙がっているが、具体的な改善計画は作成されていない。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3~5ヶ月に1回開催しており、市の職員、前自治委員、民生児童委員、家族の出席があり、グループホームの活動報告や改善事項などについての話し合いは行っているが、意見は少なく、サービスの質の向上に活かすまでには至っていない。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>訪問時に、要望や意見を言ってもらえるような雰囲気づくり、関係づくりができており、それらの意見を運営に反映している。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の行事には、利用者とともに参加している。地元の小学校や保育所とも、毎月交流があり、芋や米などの差し入れも時々ある。利用者は地元の人が多いので、老人会行事には家族とともに参加するなど、事業所と家族が協働して、地域との交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念に基づいて、全職員で話し合い、理念はわかりやすく、実践できるように作っているが、地域密着型サービスとしての意義が盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスとして何が大切かを、全職員で話し合い、地域との関係強化をめざした内容の理念に見直すことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で、具体的なケアについて意見の統一を図り、日常の暮らしの中で、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事には、利用者とともに参加し、地域の小学校や保育所とも、毎月交流があり、芋や米などの差し入れも時々ある。また、利用者は地元の人が多いので、老人会行事には家族とともに参加するなど、事業所と家族が地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が作成し、職員会議で、項目ごとに話し合い、改善項目は挙がっているが、具体的な改善計画は作成していない。	○	評価の意義や活用方法について、全職員に周知するとともに、自己評価を行い、改善に向けての具体案の検討や実践に向けて取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3～5ヶ月に1回開催しており、市の職員、前自治委員は固定であり、グループホームの活動報告や改善事項などについての話し合いは行っているが、意見は少なく、サービスの質の向上に活かすまでには至っていない。	○	おおむね2ヶ月に1回実施し、外部評価の結果なども報告し、モニター役になってもらったり、地域の理解と支援を得るために、双方向的な会議になるような配慮を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の出席以外にも、市の担当者と度々連絡を取り合い、困難事例や現状の報告を行ったり、連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の広報誌「ひだまり」と「ひまわり行事表」、金銭出納のコピーを毎月送付している。ほとんどの家族は度々訪問があり、他の家族も最低月2回は訪問があるので、職員の異動や日々の暮らしぶりを話したり、電話できめ細やかな報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に、要望や意見を出してもらえるような雰囲気づくり、関係づくりができており、それらの意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を固定化し、退職者も1年間はないが、やむを得ず異動する場合は、利用者、家族に紹介し、安心できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は休暇を利用して参加することになるため、職員の受講は少なく、年間の研修計画が立てられていない。	○	職員の質の確保、向上に向けた育成のため、パート職員も含めた職員各自が、能力に応じて段階的に力をつけていけるように、事業所としての研修計画を立てることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会、宅老所・グループホーム大分県連絡会に加入して、交流の機会を作っている。また、同法人のグループホーム「やまもも」と連携し、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者に対して、病院に面会に行ったり、家族や本人に見学に来てもらい、納得し安心してサービスが利用できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に寄り添いながら、何でも言い合える関係づくりを心がけ、人生の先輩としていろいろなことを教えてもらったり、一方的な関係にならずに、お互いに支え合う関係づくりがある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、一人ひとりの希望や思いを把握することを意識しながら声かけを行い、把握したことは、全職員で共有している。何をする時も、利用者との話し合いを大切に、家族の意向も聞きながら検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時や、日々の暮らしの中で把握したことをもとに、管理者が作成しており、全職員の意見を反映していない。	○	計画作成のための会議を持ち、全職員で意見交換やモニタリングを行い、家族や本人の意見を介護計画の作成に活かすことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、見直しを行っているが、期間や状況変化に応じての見直しが実行されていない。	○	定期的に見直しを行うとともに、変化がみられなくても、月に1回程度は本人や家族の意向や状況により見直しの実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の病院の受診時の送迎や入院中の洗濯物を取りに行ったりはしている。専門医の受診や墓参りの外出は家族が行っており、事業所の支援は少ない。	○	利用者と家族が安心して暮らし続けるために、必要な時に必要なサービスを、事業所としての多機能性を活かして、個別性のある柔軟な支援をすることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科医院以外は、家族と本人の納得の上で、母体の医療法人がかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるように支援するとともに、受診結果に対する情報の共有もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての方針はなく、重度化した時には母体の医療法人に入院している。	○	重度化や終末期に向けた検討を行い、事業所としての方針を全職員で共有し、早い段階から、家族および本人と話し合いを持ち、安心した暮らしができるよう支援することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや職員会議などで、プライバシーの保護について話し合いを行っているが、マニュアルなどがなく、個人情報の取り扱いについて、全職員の意識共有が不十分である。	○	プライバシー保護や個人情報の取り扱いについて、マニュアルを整備し、全職員に徹底を図ることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、何でも話し合いながら、利用者の希望に添って、朝がゆっくり過ごしたい人には朝食の時間を下げたり、居室でゆっくり面会したり、利用者のペースにあわせて柔軟に支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理、テーブルふき、片付けなど、一人ひとりの力を活かしながら、利用者と一緒にしている。また、職員もテーブルを囲んで同じものを食べ、会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、隔日で午後からの入浴となっているが希望すれば毎日入浴できる。入浴をしたがらない人に対しては、言葉かけや対応の工夫をしながら誘導する支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や日々の関わりの中で、得意分野でお願いできそうな仕事を頼んだり、相談しながら、梅干し作りや、栗や柿の皮むき、餅作りなどを行っている。月2回の外食やドライブを実施するなど、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって、ドライブや外食に出かけている。また、天気の良いときは、公園に行ったり、食材の買い出しなど日常的な外出は一緒にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、外出傾向を察知し、外出時はさりげなく対応するなど鍵をかけないでケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡体制はあるが、今年度は防災訓練を実施していない。また、地域の協力体制や災害時に備えての備蓄の準備がない。	○	事業所で、防災訓練や緊急時の対応訓練の実施、地域の協力体制や災害時に備えての食料や飲料水などの備蓄が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取は把握しているが、献立は利用者と相談しながら立てているので、栄養バランスや摂取カロリーの把握が不十分である。	○	栄養バランスや摂取カロリーについて、栄養士等の専門の方に見てもらい、おおよその栄養摂取量等を把握することを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、手作りで季節感のあるものを利用者と一緒に考え飾っている。フローアには、ゲームをしたり、くつろいだりできるスペースを作っており、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせて、馴染みのものや使い慣れた日用品が置かれ、居心地の良さに配慮している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 二豊会
(ユニット名)	グループホーム向日葵
所在地 (県・市町村名)	大分県国東市国見町竹田津3625番地
記入者名 (管理者)	東 美代子
記入日	平成 19 年 12 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所独自に理念をつくり、毎日のミーティングや毎月の職員会議等で介護の基本・運営理念に沿っての共有化を図っています。住み慣れた地域での安心した「安らぎ」のある暮らしが出来るように理念の柱に置いた。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員全員で理念の見直しを行い、「笑顔」「親切」「安らぎ」と事業所独自の理念をつくり、毎日の暮らしの中に理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族の面会時や病院の新聞等により地域の方に理解してもらえるように徐々にですが取り組んでいる。</p>	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域住民の一員として町内会班にも加入し、お接待の行事を行ったり、隣近所の方よりお野菜を頂いたり、また当グループホームが元保育園の跡地にて、度々、園児が訪問してくれています。これからも積極的に取り組んでいきます。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>孤立することなく保育園児等の来訪が多く、また地元の人々と交流することには努めています。運動会等の地域活動にも体力的に無理なこともありますが見物等の参加は努めています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域とは支え支えられる関係にありたいとは思っていますが、支えられて頂いているだけで、支えるまでは出来ていません。	○	今後の課題の1つです。認知症の相談を受けたり、実習生の受け入れも積極的に行っていけるように努めます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行い、サービスの質の向上に努めています。外部評価の結果はミーティング報告し改善に向けて検討や実践につなげるように努めます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、「向日葵の生活のようす・毎月の職員会議録」等の報告を行うと共に、改善したい事等を話し合い意見を頂いています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険係とは度々連絡を取り合っています。また運営推進会議により、連携をとってサービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人が必要なケースが今までありませんでしたので、地域福祉権利擁護事業・成年後見制度を学ぶ機会がありませんでした。	○	今後は、研修等に参加し、勉強会を開き理解を深め、必要な人には活用できるように努力します。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等ニュースにより虐待の問題が上がった時、常時虐待防止に関する理解に取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項の説明(特に、ご利用料金・他科受診時等)は十分行っています。また、その後も疑問点があれば伺い理解を図っています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には常時、要望・苦情は伺っています。苦情を頂く事は少しでも改善が出来るのでお願いしています。伺った要望・苦情は直ちに、職員全員で検討し、結果は入居者様・ご家族様にお伝えし改善に努めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「向日葵での生活のようす」で暮らしぶりをお知らせしたり、健康状態は「声を聞いてください」と電話をかけ本人がお話し報告をしています。金銭管理は金銭出納簿を明示し、毎月コピーを送付しています。尚、品物等の購入は、その都度電話でご家族に了解を得てから購入しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、苦情・要望等に対応する常設の窓口・担当者の設置を伝えています。面会時には常時、要望・苦情を伺うようにしています。苦情を頂く事は少しでも改善が出来るのでお願いしています。常に、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には、毎日の申送りや職員会議等、常に意見や提案を聞き質の向上に努めています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応が出来るようにシフトに入れない為、利用者の状態の変化に応じた体制が取れるようにしています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご家族との信頼関係を築く為にも職員を固定化し安心できるケアに心がけています。職員の異動時は必ず入居者、ご家族にきちんと紹介しスムーズに移行できるように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはなるべく多くの職員が受講出来るようにアプローチしていますが、まだまだ参加の機会が少ないです。	○ 今後の課題として、研修の受講が出来るように努力していきたいと思います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療法人としてグループホームが2ユニットありますので、常に連携をとっていますが、他のグループホームへの見学や研修はまだ交流が少ないです。	○ 他のグループホームへの見学や研修会等に積極的に参加し、取り組んで行きたいと思っています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が短時間でも心身を休める休憩室がない為、休憩を取りにくい状況にあります。	○ 今後の課題として、日常や面談時に職員のストレスや悩みを把握するように努めます。職員同士ではストレスがたまらないように、なるべく入居者のお茶の時間に合わせて職員もお茶時間を取るようになります。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	回診もあり週に1回は来訪しているが、業務や勤務状況、職員個々の把握は出来ていない。	○ 労働条件を整えていくことが今後の課題であり、向上心を持って働けるように努めて行きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の相談時には必ずご本人の不安や困っていることを把握し、思いを受け止め安心して入居できる関係づくりに努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記23と同じく、入居希望の相談時には必ずご家族の不安や困っていることを把握し、思いを受け止め安心して関係づくりに努めています。「傾聴」を重んじています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや地域のケアマネージャー等と連携を取り合い対応をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむ得ず、直ぐに利用になった場合は、ご家族やそれまでにかかわった関係者に来てもらう等、本人が安心して納得いくように努めます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様には「私達の人生の先輩なのだからいろんな事を教えてほしい」、また「一緒に暮らしているのだから遠慮をしないように」とも気持ちを伝えていますが、もっと教えて貰ったりの支えあう関係を築いていきたいです。	○	もっと教えて貰ったりの支えあう関係が出来るように努力します。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を常に行い、共に本人を支援していくように努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人・ご家族の思いや状況を見極めながら、もっと良い関係が続くように、お互いの気持ちや思いが結びつくように努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている入居者様がいますが生活習慣を尊重しています。関係が断ち切れないように支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶時や洗濯たたみ・耳垢とり・爪切り・花の苗植え等、みんなで笑いながら楽しく過ごせるように関わり合い、支え合えるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了しても、遊びに来てもらう等、引き続きお付き合いが出来るように心がけ努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりあいの中で話しかけ、表情や言葉で把握に努めています。また意思疎通が困難な方には、ご家族からの情報を得て、本人本位に検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時や、ご本人より日々のお話の中でこれまでの生活歴や既往歴を伺い把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の暮らしの中で、出来ないことよりも一人ひとりが「出来ること」を把握し、有する力を伸ばしたいがまだまだ出来ていません。	○	今後の課題として、1日の暮らしの中で、「出来ること」に注目し、一人ひとりの把握に努めていこうと思っています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の面会時や、ご本人より日々のお話の中で思いや意見を伺い、本人がより良い暮らしが出来るように介護計画の作成に努めたいと思っていますがまだまだです。	○	ご家族の面会時や、ご本人より日々のお話の中で思いや意見を伺い、心あるケアが出来るように介護計画の作成に努めます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現場におわれ、期間・変化に応じての見直しが出来ていません。状態を把握し、本人に即した介護計画の見直しを行い作成に努めます。	○	今回の第一の課題ですので、直ぐに実行したいと思っています。状態を把握し、本人に即した介護計画の見直しを行い作成に努めます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のようす・健康状況・食事摂取量・水分摂取量・排泄回数等をケア実施記録を記載し、今後の介護に努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、入居者様にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置(週1回の回診)を受けながらの生活の継続を支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察・消防・小学校・保育園・民生委員様等の協力を得ながらの支援をしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用は少ないのですが、地域のサービス事業所のケアマネジャーとの連携はとれています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に介護保険係担当者が参加していただき、情報交換や協力関係を築いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人にて、病院とは常時連絡が取れ医療が受けられるようになっています。歯科についても町内の歯科医院の協力を得て適切な医療を受けられるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療法人にて、病院とは常時連絡が取れ医療が受けられるようになっています。外科についても大学病院より週2回ほどDrが来られ受診できる為に相談・支援ができます。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療法人にて、病院とは常時連絡が取れ医療が受けられるようになっています。24時間体制にて看護師がいる為、気軽に相談が可能です。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、本人が安心して過せるように支援情報を提供し、毎日職員が見舞うようにしています(洗濯物等を取りに行く)。Drから回復状況・退院等の情報を頂き、ご家族とも連絡をしながら速やかに退院支援を行っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	毎週の回診時がある為、早い段階からDrに相談し、本人やご家族の意向を確認しながら、全員で話し合い方針を共有し、支援につなげています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の入居者様がホームで暮らしていく事は今まではなかった為に、まだ取り組んでいません。今後の課題となります。	○	ターミナルケアは、人生に於いて最終場面でもとても重要な意味を持つと思います。Drは勿論のことですが、スタッフの理解や意欲、チームの連携諸条件を備えなければなりませんので難しい取り組みになりそうです。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所等に移られる場合は、プライバシーを考慮し、アセスメント・ケアプランや支援状況を手渡すと共に情報交換を行いリロケーションダメージをを最小限に防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常時、申し送りや職員会議等により、一人ひとりの尊厳・プライバシーを損ねない対応の徹底を話し合い努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「食べたい物はない」「行きたい所はない」等、尋ねて決めています。10時・3時とお茶タイムはあるが「飲みたい時はいつでも言って」と声かけしています。他の事も、押付けはせず常に入居者様に納得して頂き決めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位を頭の中において支援を行っています。本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個別ケアを目指しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	1名は行着けの美容院に出掛けています。他の8名は希望の美容院はない為、美容師さんが来訪してくれるのでカットをお願いしています。時々、ご家族と外出時にカットをしてくる方もいます。希望時は支援します。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物と一緒にいける・調理を手伝える方と個人の限界があります。栗の皮むき・お餅作り等は感染を気をつけながら、出来る方のみとなってしまいます。テーブル・お盆拭き等は常に手伝って貰っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は、お酒・タバコを好む方はいませんが、自宅に居た時と同様に、なじみの飲み物・おやつ類があれば尋ねて、日常的に楽しめるよう努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を使用し、尿・便意がない(放尿・放便あり)方がいますが、排泄パターンの把握をし、トイレ誘導によりトイレで排泄が出来るように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望があれば本人の希望に沿って入浴をしていますが、入浴拒否の方が回数が多く、言葉のかけ方等の工夫をしながら入浴支援を試みています(入浴後は気持ちよかったとの事です)。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ゆっくり眠れるようにエアコン等の調整をまめに行っています。どうしても眠れない方に対しては原因や生活リズムをもとにDrに相談して全体的な調整に努めています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	梅干し作りや栗の皮むき・カカラ餅作り等入居者様に相談しながら作っています。また、体調や天候を考慮しながら、月2回は外食が出来るように努めています。バースデイ時は必ず出掛け祝っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さはわかるのですが、現在は、所持金は持たせていません。お金がなくなった等の問題で、利用者同士のトラブルを防ぎたいからです。	○	今後の課題ですが、ご家族と話し合い検討します。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様の希望にそって外食やドライブに出掛けるようにしていますが、車の調子が悪くどこでもは無理なところがあります。	○	現在、車の購入を検討中です。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	上記61と同じく、車の調子が悪く坂道に心配があり、どこでもは無理があります。車の購入許可を待っている状況です。	○	現在、車の購入を検討中です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等には電話で話せるようにアプローチし、また本人がゆっくり話せるように職員は席を外し、事務所を使用しています。ご家族に用件のある時は、必ず電話を本人にもかわり元気な声をきいてもらうように支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるように、面会時間等の制限等は決めていません。居心地よく過せるように努めています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送りや職員会議を通して身体拘束の対象となる行為を理解し、身体拘束をしない為の支援に取り組んでいます。また向精神薬は過剰に服用しないように取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかける事はありませんが、内戸に鍵をかける事はあります。徘徊者の方がおり、警察・消防等をお願いした事があるからですが、せめて日中は内戸の鍵をかけずに過せるように努めます。	○	今後の課題です。内戸の鍵もかけなくて自由に出入りが出来るような方向を検討し努めます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、特に夜間等は1～3時間毎に巡視し、音等の異変を感じた時は直ぐに訪室する等の安全確認を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具等は、一応職員側で保管しています。使いたい時はいつでも使えるように対応しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットに関する報告、記録は整理・保存しています。報告をもとに事故防止策を検討し、再度同じ事を繰り返さないように取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療法人なので、つい母体病院に頼る体制になっています。2年に1回程の応急手当の勉強会の実施位ですので実際に出来るか不安です。	○	せめて年1回は応急手当の勉強会を実施し、急変時に対応できるように努めます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・消化器訓練は行っています。また水害時は母体病院に避難するようになっています。台風時等は前もってわかるので、夜勤帯では夜勤者と管理者の2名で対応するようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	内戸の施錠の問題があります。抑圧感のない暮らしの支援に努めていきます。	○	家族との話し合いにより、内戸の施錠等、抑圧感のない暮らしの支援に努めていきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持病やアレルギー有無等の把握はしています。牛・豚肉に発疹する入居者さんがおり、毎回食材に注意をしています。また持病のある方は、常に顔色やようすに注意し見落とさないように職員で徹底しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により薬の内容の把握が出来るようにしています。服薬時は本人に手渡し、服薬確認をしています。薬の処方が変更された場合等は、特に本人の状態変化を詳しくケア実施記録に記録し、Drに報告しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	クローラ・牛乳・食材の工夫や、お腹のマッサージ、運動等を働きかけできるだけ自然な排便が出来るように取り組んでいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりに応じた歯みがきの手伝いをしている(虫歯の治療を要する方がいるが、ご家族と話し合ったが歯の治療が無理)。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量は、毎日ケア実施記録に記録し、栄養バランス・水分不足等が起こらないように、状態を把握できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザはご家族の同意をもとに、早めの予防接種を行っている。ノロウイルス対策としては、手洗いの励行・ペーパータオルの使用・手摺拭き(消毒液ハイター使用0.1%)等を実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾やカップ等は常時漂白し、清潔に心がけ、食材は新鮮なうちに使用し、冷蔵庫の残り点検・掃除をまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置き、季節の花で明るい感じの玄関になるように、また訪問しやすいようになるべく網戸にして対応している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もっと畳の部屋が広いと、くつろげるのではないとの疑問がある。	○	運営推進会議にて検討し、畳や畳カーペットを使用してはどうかとの提案を頂いたが、少しの段差に躓き転倒してはとの意見もあり、検討中です。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記81と同じく、くつろぎにくいのではとの疑問がある。居場所の工夫をしたい。	○	ゆったり出来るソファを購入し、気の合った利用者同士で過ごせるように工夫したい。ソファ購入許可待ちである。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様には「家で使われていた馴染みの物や好みの物を持ってきていいですよ」との声かけはしていますが、入居者様によっては持って来られなかったり、放尿・放便が多く、居室に物を置けない場合があります。	○	今後の課題です。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレは換気扇と消臭剤を使用し、オムツ等の汚物入れの蓋に消臭剤を付けたりして、悪臭を防ぐ工夫をしています。エアコンで快適な温度調整をし、空気の入替えも3時間毎に行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的にバリアフリーであり、わずかな段差や家具等の配置により、躓いて転倒につながる原因はないかは常時チェックをしていますが、入居者様が作業しやすい視点ではまだまだ整っていません。	○	今後の課題です。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	今まで、大きな認識間違いや判断ミスはなかったかと思いますが、部屋を間違える等は、時々あります。	○	部屋のネームはありますが、もっと判りやすいように検討します。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	車の駐車場が別にあれば玄関前の庭がもっと活用できると思います。また、庭に石ころを敷き詰めていますが、徘徊を防ぐ為に石ころを敷き詰めたようです。とても歩きにくく活動しにくいので、どちらが良いかは疑問です。	○	裏庭が広いので活用できるように検討します。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「笑顔」「親切」「安らぎ」が理念です。いつもニコニコ笑顔で、どんな時にも親切に接し、家庭的で落ち着いた環境の中で安らぎのある生活が送れるように支援したい。